

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093700013		
法人名	有限会社 福岡医療研究所		
事業所名	グループホーム やさしい時間		
所在地	〒811-1241 福岡県那珂川市後野4丁目10番5号 Tel.092-952-6563		
自己評価作成日	平成30年10月05日	評価結果確定日	平成30年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel.093-582-0294		
訪問調査日	平成30年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり、ゆったり、穏やかに」を理念とし、自然豊かな地域の中で、安心してくつろいだ生活を送れるよう支援している。
 毎月その季節に合った行事を計画し、外出支援やレクリエーションを行っている。
 主治医や訪問看護と連携し、利用者様が安心して過ごせるよう努めている。また、ご本人、ご家族の希望があれば看取りも行っている。
 認知症でも尊厳のある生活を送れるよう、笑顔を絶やさぬ支援を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「やさしい時間」は、後野公民館や那珂川市中央公民館等、公共施設に近い利便性の良い場所にあるグループホームである。「馴染みの地域の中で『ゆっくり、ゆったり、穏やかに』過ごしていただけるようサービスを提供します」を理念として掲げ、明るく優しい職員が親身になって利用者へ寄り添っている。職員が定着し、職員の気づきが多く、訪問看護師に繋げて対応し、月2回の往診体制が整った協力医療機関との連携と併せて安心の医療体制が整い、看取りの支援にも取り組んでいる。管理者、ケアマネージャー、リーダーを中心に、40歳代が主力のチームワークの良い職員がアイデアを出し合い、行事や外出レクを企画し、利用者の笑顔に繋げている。地域の祭りへの参加や散歩時の挨拶等、少しずつ地域との交流を広げ、地域貢献を目指している、グループホーム「やさしい時間」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、ゆったり、穏やかに」の理念に基づき、利用者様の気持ちに寄り添った支援を心掛けている。	ホームの理念、「馴染みの地域の中で、『ゆっくり、ゆったり、穏やかに』過ごしていただけるようサービスを提供します」を掲げている。目に触れる場所に掲示する事で理念の共有に努め、職員は思いやりの心を持って利用者へ寄り添い、笑顔溢れる暮らしの支援に取り組んでいる。	理念に沿ったホームの月間目標や、職員個人の目標を立て、定期的に振り返る機会を設けることで、理念を日々の介護サービスに結び付けていくことを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館でのダンスに飛び入りで参加させていただくことがあり、少しずつではあるが交流の機会を作るようにしている。	運営推進会議の委員から情報を得て、地域の祭りに参加したり、散歩時に通りかかった公民館で地域の方とダンスを楽しんでいる。また、近隣のスーパーでの買い物や、公園までの散歩時に挨拶や立ち話をする等、少しずつ、地域の一員としての交流が広がっている。	公民館が近くにある地の利を活かし、地域の高齢者との定期的な交流や予防体操や介護相談等、地域貢献に繋がる取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方へ出席していただき、事例紹介や意見交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、ホームでの取り組みなどを報告している。ご家族や地域の方との意見交換を行うと共に、他施設の管理者からの助言等もいただき、サービス向上に活かすよう努めている。	運営推進会議は、入居状況や活動内容、ホームでの取り組みについて報告を行い、参加委員からは、質問や要望、情報提供を受け、それらをホーム運営に反映させている。近隣の他事業所管理者の参加を得て情報交換を行い、協力関係を築いている。	参加委員が固定化しているため、順番に家族に参加してもらったり、薬剤師等の専門職によるミニ勉強会、避難訓練やレクの体験等、参加委員の増員と内容の工夫が望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて市町村、地域包括支援センターの方から助言等をいただいたり、相談事や事故報告等を迅速に行い、協力関係を築いている。	運営推進会議に、行政や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を理解してもらい、助言や情報提供を受け、協力関係を築いている。また、行政担当窓口へ、ホームの空き状況や事故等を報告し、疑問点や困難事例の相談を行う等、情報交換しながら連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。会議にて身体拘束について意見交換を行いながら、利用者様の希望、意思を尊重し、見守りや声掛けを行い安全に過ごせるようにしている。	月1回のスタッフ会議の中で行う、個別のケアについての話し合いの中で、身体拘束についての意見交換を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、2ヶ月毎に開催する運営推進会議の中で、身体拘束廃止委員会からの報告を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、精神的虐待がないようスタッフ会議等で研修を行っている。職員間で声を掛け合い、言葉遣いにも気をつけながらケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を配布し職員が理解できるよう努めている。スタッフ会議での勉強会等、今後もっと学ぶ機会を持てるようにしたい。	成年後見制度についての資料を配布する等して、職員の理解に努めている。必要時には、資料やパンフレットを基に、利用者、家族に説明し、関係機関と協力しながら、制度を活用できるよう支援している。	内部研修の中で、権利擁護についての研修を実施する等、制度について、職員の周知に向けた取り組みを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際は、ご家族の不安や要望などを伺い、契約書に基づき説明し、理解して頂くようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の案内をご家族に送付し出席を呼びかけている。また、ご家族が来所された際などに、日々の様子の報告を行うと共に、意見や要望などを伺い反映出来るよう心掛けている。	職員は、日常会話の中から利用者の思いを聴き取っている。家族については、面会や行事参加の時に、利用者の状況を伝え、意見や要望を聴き取り、職員間で共有し、ホームの運営や介護サービスに反映出来るよう取り組んでいる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や日々の会話の中で、職員からの意見や提案を聞く機会を設け、検討、反映出来るよう努めている。	職員が集まりやすい日中の10時に時間を変更し、1時間程度の時間をかけて、スタッフ会議を毎月開催している。意見や要望が出しやすい雰囲気にして、活発な意見交換が行われ、出された意見は検討し、出来る事からホーム運営や業務改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状況の報告を受け、各職員と関わる中で状況を把握するよう努めている。また、各職員が責任や向上心が持てるよう、委員会を設け業務を分担しつつ、職員同士が協力し合える体制づくりを心掛けている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては性別や年齢、経験ではなく、人柄を重視している。また職員がそれぞれの能力を発揮できるよう、個性を尊重し意見交換しながら勤務している。	職員の採用は、性別や年齢、経験を問わず、人柄を重視している。40歳代が多いため、それぞれの家庭の事情に配慮してシフトを組む等、働きやすい環境作りに取り組んでいる。また、職員の「こうしてみたら？」を大切に、実現に向けてチームワークで取り組み、やりがいを感じられるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修の受講や日々のケアの中での意見交換などで、職員の人権教育に努めている。また、利用者様が自分らしく穏やかに過ごせるよう、職員は言葉遣いに注意し支援している。	スタッフ会議や研修会の中で、利用者の人権尊重について話し合い、職員一人ひとりが、「ゆっくり・ゆったり・穏やかに」の理念に沿った介護サービスに取り組み、利用者が安心して穏やかに暮らせるグループホームを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加や資格取得がしやすいよう勤務の調整を行っている。職員一人ひとりに合った研修に参加し、学んだことをスタッフ会議にて報告しスキルアップを目指している。また不安や疑問がある時に、相談や質問がしやすい職場作りに努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や地域の介護事業所との研修会などへ積極的に参加し、交流する機会を作っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人やご家族から話を聞き、希望や不安をくみ取り職員間で共有し、安心して過ごしていただけるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望をしっかりと聞き、何でも気軽に相談できる雰囲気を作ることで、信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との会話などから要望を確認し、その時に必要とされる支援を行うよう心掛けている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	茶碗拭きや洗濯物たたみなどの生活リハビリを取り入れ、家事作業を職員と一緒に行う中で、よりよい関係が築けるようコミュニケーションを取っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子をお伝えしたり、ご家族の要望を伺ったりしながら、ご本人とご家族の絆が途切れることのないよう、橋渡し役となるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、友人の面会時に、好きなことや趣味など以前の様子を伺ったり、ご本人から若い頃の話をお伺いしている。	利用者の重度化や、友人、知人の高齢化で、面会は徐々に減っているが、時々昔の友達の面会等があり、居室やリビングで懐かしい時間を過ごせるよう支援している。家族と一緒に外出し、外食して帰ってくる等、家族の協力を得ながら、利用者が長年築いてきた馴染みの関係が継続出来るように取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操、歌、レクリエーション等を通し、利用者様同士が関われるよう心掛けている。また孤立することがないように職員が仲介し支え合える雰囲気作りに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時には病院へ面会に伺ったり、亡くなった時には最期のお別れに伺ったり、必要に応じてその後の相談や情報提供等ができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動、表情から出来る限り本人の希望や意思を把握し、支援できるよう取り組んでいる。	職員は、日常の関わりの中で、利用者の思いや意向を把握し、職員間で情報を共有して、日々の介護サービスに活かせるように努力している。意志を伝えることが難しい利用者には、家族に相談したり、過去のアセスメントを振り返り、職員が優しい笑顔で、利用者寄り添い話しかけ、思いや意向を汲み取る工夫をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族の話、病院等からの情報を元に、フェイスシートやケアプランを作成し、情報の共有、把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子からは勿論の事、家事作業やレクリエーション等を通して、その方の体調や心身状態を把握するよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム内の様子、状態をスタッフ会議で報告し意見交換を行い、ご家族や主治医等の意見も反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、スタッフ会議を利用して担当者会議を行っている。職員の気づきや意見を踏まえ、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の重度化や状態変化に合わせ、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う行動や発言があった時など、日々の様子を個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、介助や対応の見直しに活かせるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族または職員からの支援に関する意見が出た時など、よりよい支援につながるよう話し合い検討している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りに参加したり、地域の行事に呼んでいただいたりしながら、生活を楽しむ支援を心掛けている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の病状や体調を把握し、ご家族の希望を伺いながら、病院受診や往診を受けられるように支援している。	入居前に、利用者や家族の希望を聞いて主治医を決めている。現在、1名が入居前からのかかりつけ医を希望され、受診は家族対応でお願いしている。月2回の往診が出来る協力医療機関の医師と看護師、訪問看護師、介護職員との連携で、24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で、利用者様の状態の変化や異常を見逃さないようにし、訪問看護師や往診クリニックの看護師に報告し、ご家族と相談しながら受診等が受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療ができるよう、ホームでの状況を正確に伝えたり、面会に伺ったり、退院に向けてご家族や病院関係者と話し合いを設けたりし、情報交換や相談が出来る関係を築いている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、出来るだけ早い段階でご家族や医師と話し合いを行い、ホームで出来る事、出来ない事を説明し、どのような選択をすればご本人が最期までその人らしく生活ができるか、ご家族と話し合い支援できるよう取り組んでいる。	契約時に、重度化や終末期の方針について、利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と密に連絡を取りながら、主治医や訪問看護師を交えて今後の方針を話し合い、希望があれば、ホームでの看取りを行っている。「ここに入居して良かった」と思ってもらえるよう、心をこめて看取りの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを把握し、それに沿って行動できるようにしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯、夜勤帯を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議で区長、副区長と話し合いをしながら、地域との協力体制をしっかりと築いていきたい。	避難訓練を年2回、日勤帯と夜間帯を想定して実施し、通報装置や消火器の使い方の確認を行っている。また、出火場所によって、避難経路や避難場所を変更する等、どんな場合にも慌てずに対応出来るよう、取り組んでいる。災害時に備えて、非常食、飲料水の準備も行っている。	地域の方に訓練に参加して貰ったり、災害時に、地域の避難場所としてホームを開放する等、相互に協力できるような取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時や入浴時等、各場面に応じて羞恥心に配慮したケアを行っている。また、常に尊厳を忘れぬ言葉遣いを意識し、穏やかな口調で対応するよう心掛けている。	スタッフ会議や申し送り時に、利用者の人格を尊重し、プライバシーを守る介護サービスについて職員間で話し合い、利用者の個性やこれまでの習慣に合わせて、言葉遣いや対応に注意している。また、利用者の個人情報外部に漏れないように、常に職員間で注意し、周知徹底を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の表情や言葉から思いをくみ取ったり、ご本人がどのようにしたいか聞いたりしながら、日々のケアを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の話をしっかり傾聴し、その日の体調などに合わせて、可能な限り一人ひとりのペースで過ごせるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に化粧水をつけたり、髪を整えたり、必要な方にはホットタオルを提供し顔を拭いたり、季節に合った洋服を職員と一緒に選び身だしなみを整えられるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人に合った食事形態で提供できるように努め、好きな物をおいしく食べていただけるようにしている。食後には食器洗い、食器拭きを職員と一緒にやっている。。	カロリー計算され栄養バランスのとれた配食サービスを利用して、盛り付けを行い提供している。苦手な献立で食が進まない利用者には、職員がおかずを一品作る等、柔軟に対応している。御飯を茶碗によそったり、食後の食器ふきやテーブル拭きは利用者の手伝ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、不足している場合は好みのものを提供するなどし、1日の摂取量を確保できるよう努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医、歯科衛生士の指導の下、出来る限り毎食後にケアを実施している。必要な方には口腔ケアスポンジや歯間ブラシを使用し清潔保持に努めている。夜間は義歯を預り、超音波洗浄を実施している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムの把握を心掛け、時間を見て声掛けし、トイレへの誘導を行っている。布パンツで過ごせる方は、こまめな声掛けにて布パンツでの生活が継続できるようにしている。	トイレで排泄することを基本とし、職員は利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、声掛けや誘導を行い、失敗の少ないトイレでの排泄の支援に努めている。また、夜間は、トイレに起きられる利用者は誘導し、起きられない方は睡眠を優先して対応する等、それぞれに応じた支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録をチェックし、ミルクやバナナジュースなどを提供している。運動や水分補給などでも排便が困難な場合は、主治医に相談をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に必ず声掛けを行い、拒否がある場合は時間をずらしたり、職員を変える等し対応している。入浴が好きな方には、ゆっくりとした時間の中で気持ちよく浴槽に入ってもらえるよう、落ち着いた声のトーンでの会話をしながら見守りを行っている。	入浴は、利用者の希望や心身の状態を見ながら、最低でも週2回行っている。湯船にゆっくり浸かってもらい、職員は利用者と一緒に話をしながら、楽しい入浴となるような支援に取り組んでいる。入浴を拒む方には、時間をずらしたり、職員が交代して声掛けし、無理強いをせずに利用者の気持ちを優先した支援に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、日中に体操や歌のレクリエーションを取り入れたり、散歩をしたり、出来るだけ安眠できるよう支援している。また、その日の体調により、いつでも居室で休んでもらえるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は職員がいつでも見られるようにしている。新しく薬が処方された場合、どのような薬であるか、使用の目的や副作用などを職員に周知徹底し、体調の変化や心境の変化を観察するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや茶碗拭きなど、その方の出来る事を手伝っていただいたり、歌や体操、塗り絵などのレクリエーションを行ったりしている。天気の良い日には散歩や外出をして気分転換ができるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	出来る限り月に一度は外出する機会を作るようにしている。近くの大型スーパーや公園等へ行き、ジュースを飲んだり、アイスを食べたりして暮らしを楽しめるように努めている。ご家族と外食に出かける方もおられる。	自然に恵まれたホーム周辺の散歩や買い物、花見やドライブに出掛け、利用者の気分転換を図っている。また、クレープやドーナツ等の、おやつを食べに出かける事は利用者の楽しみである。家族の協力を得て、外食や買い物に出かけ、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人用にお預かりしているお金より、必要なものを必要に応じて購入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきた時には取り次ぎ、ご本人の希望があれば電話がかけられるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温に配慮している。ホールには、季節に合わせた花や風景の装飾をしたり、写真や利用者様が製作したものを掲示したりしている。	室内には、利用者と職員と一緒に制作した作品や、利用者の笑顔の写真を掲示して、明るく、アットホームな雰囲気の良い共用空間である。利用者が居心地良く過ごせるように、テーブルやソファの配置を工夫している。換気、清掃を小まめに行い、清潔な環境の中で気持ちよく暮らせるよう支援している。	中庭に、ベンチやテーブルを置く等して、利用者が重度化しても、日常的に外気浴が出来るような環境整備を期待したい。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で過ごせるようテーブルやソファの配置を考えたり、独りになりたい時にはさりげなく居室へ誘導したり、一人ひとりの居場所作りを工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の写真を飾ったり、趣味の品が置かれていたり、居心地のよい空間になるよう心掛けている。	利用者が長年使い慣れた馴染みの家具や身の回りの物、家族の写真等を、家族と相談しながら持ち込んでもらい、その人らしい居室となるよう支援している。重度の方が多くなってきたため、動線にも配慮しながら環境を整え、利用者が安全に安心して過ごせるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が出来る方の居室は物を伝って歩けるような配置にしたり、車椅子の方がスムーズに移動できるように動線を確保したり、安全な生活が送れるように努めている。		